



Botswana Medical Information



2018年12月

新聞報道抜粋

● マシシ大統領は、世界エイズデーの式典に於いて、スピーチを行い、母子感染率は1.4%以下であり、HIV治療薬の利用は84%、安全な割礼の実施率は2015年の44%から2018年は69%になったと述べた。また、2018年6月に調査に参加した88%が自己のHIVの感染状況を知っており、84.4%の人が治療を受けており、94%の人がウイルスが抑制されている状態であることを報告した。

「自己のHIVの感染状況を知る」ということは新たなHIV感染者を抑制し、HIVのない世代を生むこととなる。しかし、ボツワナのHIV罹患率は18.5%と世界で3番目に高いことは憂うべきことである。新規感染率は5.37%であり、HIV新規感染者は年間約1万人から1万4千人と推定されている。HIVの新規感染者がゼロとなる時が、正しい方向へむかっていると判断できる時だと同大統領は述べた。

ブタレ保健大臣代理によれば、1989年からボツワナは国連の協力により **Tebelopele Voluntary Counselling and Testing services** にてHIV検査を開始し、現在では全国16カ所となった。また、政府機関以外にも、民間機関である **Botswana Family Welfare Association**, **Botswana Christian AIDS Intervention Programme (BOFWA, BOCAIP)** がHIV検査を行っている。

(3日デイリーニュース)

● 「顧みられない熱帯病」との戦い

ボツワナ政府は、2023年までに「顧みられない熱帯病」である土壌伝搬寄生虫と住血吸虫症を根絶するという目標を達成すべく、土壌伝搬寄生虫の駆虫を23万人の子供達に行う。また、2019年には、治療を必要とする住血吸虫症の罹患状況の地理的分布を調べることを決定した。(4日デイリーニュース紙)

● **African Union Sport Council Region 5 Youth Games** に参加するために当地を訪れたていた80名が、軽い下痢症状を起こした。下痢の原因はまだ特定されていないが、医療・アンチドーピング担当者は、いくつかの検査を施行し、その結果を待っており、現時点で、食品、水道水の検査結果は陰性であった旨述べた。ボトル水に関しては結果待ちの状態。12月7日以降下痢症状により保健室を受診する人が多かったが、重症な人はなく、患者数は減っているとのこと。

(14日ボツワナガーディアン紙)

●中国政府が7つのクリニックを贈呈した

保健省は、中国政府から、検査機器や医療器具を有した移動可能なコンテナ型クリニック7つの贈呈を受けた。保健大臣は式典において、これらのコンテナ型クリニックは、クリニックやヘルスポストのない地域に医療サービスを提供し、ボツワナ政府の開発目標が示されている Vision 2036 の「人的、社会開発」と、持続可能な開発目標（SDG）の目標3の「健康と福祉」の目標達成の一助となると述べた。また、中国政府の寛大さはボツワナの botho の精神（ツワナ語で道徳に則った精神）にのっとるものであり、これらのクリニックは人口2万人以下の村へ配置する予定であると述べた。中国大使館代表からは、中国からの医療援助により、過去37年間で15の医療チーム、500人の中国人医師を派遣しており、中国はボツワナの医療セクターに大きく貢献している旨述べた。

（14日デイリーニュース）

●サウスイースト地区にて散発的な下痢症が報告されている

同地域での下痢症のアウトブレイクは終息したが、散発的な下痢症は報告されているため、コミュニティーヘルスエデュケーションにて予防的マネージメントとモニタリングを実施する。

（18日デイリーニュース）

●2017年ボツワナ人口統計調査の発表

19日、ボツワナ統計局は、2017年ボツワナ人口統計調査の結果発表を行った。調査は2017年8月から10月にかけて、全国で抽出された世帯とその個人に対して行われた（計9560人）。調査は10年ごと、今回は4日目で、前回の調査は2006年に実施された。

調査は、人口とその構成、世帯の特徴、出生率、移動、死亡、障害、家族計画、妊婦乳幼児死亡率、栄養、非感染性疾患等について行われた。

主な結果として、人口は推定215万4683人、2011年より6.4%増した。ボツワナ人以外の人口は11万1846人から8万5414人に減少した。女性が生涯産む子供の数は、2006年来3人であり、婚姻が遅く、妊娠年齢が28歳と比較的高いことが影響していると考えられる。出生率は1000人あたり26と高く、乳児死亡率は出生1000人あたり48から38へ減少、5歳以下の死亡率は1000人あたり76から56へ、平均寿命は54年（2006年）から66.2年に延長した。死亡率の減少は、経済成長、医療へのアクセスの改善、HIV/AIDS 関連死の減少が関与している。

（21日デイリーニュース）

●南部アフリカ開発共同体（SADC）はクロスボーダーウェルネスクリニックをとおして HIV/AIDS の制圧を行う

SADC 地域は、世界の国々より HIV/AIDS の感染率が高く、国境を越えて行き交う人々、セックスワーカー、長距離運転手、国境付近の地元住人によりさらに感染が広がっている。若者は国境移動を行う主な構成員として、特に高いリスクとなっている。グローバルファンドのサポートのもと、SADC はメンバー12 カ国において「HIV/AIDS のクロスボーダーイニシアティブ」を実施し、クロスボーダーウェルネス移動クリニックで、HIV 検査、コンドーム配布、性行為感染症の診断と治療、プライマリケアのサービスを行っている。

2011 年～2017 年の 6 年間のイニシアティブ実施期間に、HIV/AIDS 感染率が、セックスワーカーは 50%から 23%、長距離運転手は 33%から 16%、地元住人は 14%から 7%と顕著に減少した。

（29 日 22:00 政府フェェースブック）

●大統領夫人が女子と若い女性に対して啓発

ボツワナは、HIV/AIDS の検査、診断、治療に関しての UNAIDS の目標に向かっているが、2010 年と比較し 2017 年は HIV 新規感染率が 4%上昇し、感染者数が 13000 人から 14000 人となっている。これは、他の南部アフリカの国々の感染率が 30%減少しているのと対照的である。

女子と若い女性は特に HIV 感染リスク、予定外の妊娠、性的・性差別的暴力のリスクにさらされている。2017 年には、10 歳から 19 歳の女子のうち 1500 人の HIV 新規感染者があったが、同年齢の男子の、同感染者数は 500 人以下であった。

大統領夫人は、9 日、ワールドエイズデーポストイベントにて、思春期の女子と若い女性が HIV のない人生を知らないこと、社会の病に対して傷つきやすいことを憂いていると述べた。また HIV 感染と性差別的暴力をテーマにした映画「フェイセス」の試写が行われた。

（29 日 2:00 政府フェェースブック）

文責：高原 野草（在ボツワナ日本大使館医務官）